

(★：端末を持ち帰っての活用が考えられる場面)

<外国語活動・外国語科における活用のポイント>

授業運営を効率的よく行い、言語活動を更に充実し、言語活動を通しての指導を効果的に行うために一人一台端末を活用する。

事例1 アルファベットの文字に見えるものを探し、文字や言い方に慣れ親しむ

第3学年 Unit6 ALPHABET アルファベットと仲良し

第4学年 Unit6 Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう

- ① 児童がアルファベットの大文字や小文字に見えるものを学校や家庭で探し、ICT 端末で写真を撮る。(★)
- ② 画像のどこの部分がアルファベットの大文字・小文字に見えるか分かるように、それぞれが加工する。(写真1)
- ③ 教室内でファイル機能を用いて一覧にして見られるように提示する。
- ④ 全員でその写真を共有できるようにし、ICT 端末を見ながら、アルファベット文字一覧表から見つけた文字を選んで○をつける。(写真2) また、友達と自分の名前の文字を伝え合う活動につなげる。

(外国語活動では、文字を書くことまでは求められていない。)

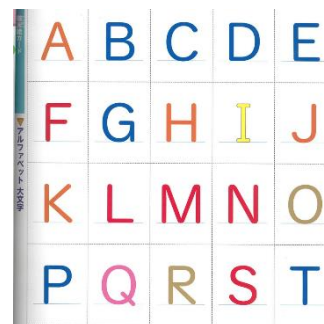
使う機能：カメラ、かき込み、提出、共有

効果的ポイント

児童が大文字や小文字に出合い、身の回りにアルファベットの文字が多いことに気付いたり、それらの言い方や文字に慣れ親しんだりすることができる。



(写真1 身の回りのアルファベット)



(写真2 一覧表に印をつける)

事例2 第5学年 Unit8 Who is your hero? ヒーローを紹介しよう

使う機能：録画、提出、かき込み、共有

自分にとってのヒーローについて友達やALTに紹介する活動を行う。

- ① ~is good at, He/She is always ~, He/She can~などの言語材料を用いながら、自分のヒーローについてできるだけ詳しく紹介できるように、毎時間言語活動を行う。
- ② 自分の発表をICT 端末で録画し、その様子を視聴しながら紹介内容の改善を目指していく。(★)
- ③ 教室内で交流したり、友達の発表についてコメントをICT 端末に記してファイル共有機能を用いて交流したりする。

効果的ポイント

単元終末に設定された題材を基に、自分の考えや気持ちを発表する言語活動を行うことが多い。単元終末までに何度も言語活動を行い、自分自身の発表をよりよく練り上げていくことができる。また、指導者が、単元終末の発表を録画視聴し、学習評価材料とすることもできる。